

X08a 北黄極多波長銀河ディープサーベイ：データ公開とサブミリ波観測計画

和田武彦、松原英雄、高木俊暢 (ISAS/JAXA)、大藪進喜 (名古屋大学)、大山陽一 (ASIAA)、後藤友嗣 (ハワイ大学)、Hyung Mok Lee (Seoul National University)、宮地崇光 (UNAM)、Matt Malkan (UCLA)、花見 仁史 (岩手大学)、Stephen Serjeant、Glenn White (Open University)、NEP 多波長ディープサーベイチーム

70~100億年前の宇宙では、現在よりもはるかに活発に星形成や超巨大ブラックホールの成長が行われていた。我々はこの激動期宇宙の銀河の活動性を明らかにするため、北黄極領域にて、赤外線天文衛星「あかり」による近中間赤外線観測を中心に、X線天文衛星 Chandra、紫外線天文衛星 GALEX、すばる望遠鏡/S-CAM、CFHT/Megacam、WIRcam、Keck/DEIMOS、WSRT20cm 電波干渉計などを用いた多波長撮像分光観測を進めている。

北黄極領域は将来の赤外線天文衛星 (JWST、SPICA) にとっても可視性の良い領域であり、中間赤外線天体カタログの利用価値は極めて高い。「あかり」により特に深いサーベイを行った0.4平方度のサーベイ (NEP DEEP) の天体カタログはすでに完成し (Takagi et al. A&A accepted)、様々な多波長データをマージする形で公開すべく準備を進めている。

本講演では、データの解析状況、データ公開の準備状況を説明するとともに、新たに、赤外線・サブミリ波宇宙天文台ハーシェルや JCMT/SCUBA-2 によるサブミリ波観測計画が進みつつある現状についても紹介する。